

タイトル「**2024年度大学院スポーツ科学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院スポーツ科学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。

[戻る](#)

科目ナンバー			
科目名	スポーツ医学特論		
担当教員	布袋屋 浩		
対象学年	1年,2年	開講学期	後期
曜日・時限	火 2		
講義室	1210	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類			
科目中分類			
科目小分類			
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1. 多文化、異文化を理解し、グローバル化する知識基盤社会の一員、スポーツに関わる一員として自らの意見を表現することができる（30%）。 DP2. 知識基盤社会の構成員として自らの専門における研究能力のみならず、確かな教養と高い倫理感を持ち、論理的な思考力を有し、スポーツにおける競技スポーツの位置づけ及び意味に対して自らの意見を説明できる（40%）。 DP3. スポーツに携わる中で、自らが発見した問題や直面した問題に対し、専門的な知識・技能を用いて主体的にかつ協働して体系的な解決策を見だし、それを遂行することができる（30%）。		
教員の実務経験	1990年より整形外科医師として診療に携わりながら、1998年に日本整形外科学会認定スポーツ医を、2000年には日本体育協会（現日本スポーツ協会）認定スポーツ医の資格を取得し、野球、陸上競技、バレーボール、バスケットボール、アメリカンフットボール等、多種多様な競技種目における、プロ、社会人および大学競技スポーツ部のチームドクターを歴任してきました。また2000年から日本ゴルフツアー機構指定医師として多数のトッププロゴルフターのスポーツ傷害管理や公傷制度の認定を担当しており、2017年からは日本大学アスリートサポートシステムのメディカル部門においてスポーツドクターとして多くの学生アスリートのケアも行っています。このような多くのスポーツフィールドや医療現場での様々な実務経験をもとに、教科書や文献を読むだけでは得られない知識や体験談を交えながら、授業を現実的な視点で勤めていきます。（全回）		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	スポーツ医学とは、人体の構造や機能に関する医学的知識を基礎として、スポーツに起因したケガや故障、すなわちスポーツ外傷・障害に対する診断、治療、リハビリテーション、予防などを研究する学問です。スポーツにケガや故障はつきものであり、競技レベルが上がるほど、一生懸命練習するほど、そのリスクや重傷度は高くなります。現代医学の世界では、“予防に勝る治療はない”というのがもはや常識ですが、残念ながらスポーツの現場では、予防対策よりも発生した症状への対症療法、すなわち“痛み”を軽減する治療だけに主眼が置かれており、発生原因の究明がおろそかであったり、定期的なメディカルチェックがなされていなかったりしています。これに対応するためには、アスリート自身が、いかにスポーツ外傷・障害を理解しそれを予防するかがとても大切で、かつ最高のパフォーマンスを発揮するための最重要課題ともいえます。 本科目では、スポーツ現場での実践例を交えながらスポーツ医科学的に様々なスポーツ活動によって生じる多くのケガ・故障の発生要因とその病態の詳細な把握から、競技場面における整形外科的、機能解剖学的問題を捉え、それらに対しての初期対応、治療および予防対策（リコンディショニングとコンディショニング）について、系統的に認識するとともに、課題を概念化してそれを解決することができる能力を高め、競技アスリートとしての自己管理能力・競技力向上能力や、指導者あるいはメディカルスタッフとしての専門的な知識と技術の向上に役立てることを目的としています。 授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するため、オンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。 ■（キーワード）スポーツ医学、スポーツ外傷、スポーツ障害、予防医学		
授業の趣旨	■副題 スポーツにおけるケガ・故障、すなわちスポーツ外傷・スポーツ障害は、その症状が同様であっても、発生原因、受傷機転および病態が様々であるため、単に発生している症状だけを治療しても、根本的な発生要因を精査・評価・診断した上での再発予防対策を講じないと、必ず繰り返します。特にオーバーユースに起因したスポーツ障害では、練習方法だけでなく、フォームそのものから改善することが必要なケースも多々あります。その判断には、詳細な発生原因の究明と、正確な医学的診断に基づく病態把握や、機能解剖学的に正しいフォームの理解が重要です。この科目では、学部の『スポーツ医学の基礎』『機能解剖学の基礎』および『スポーツ生理学の基礎』で学修した内容を踏まえて、スポーツ医学に関する国内外の研究論文を精読するとともに、スポーツ外傷・障害に関する正しく高度な専門的知識の再確認を含めて、競技スポーツの現場で応用できる様々なスポーツ医学的測定法や評価法、およびスポーツ外傷やスポーツ障害に関する初期対応方法などを修得し、アスリートやその指導者、およびアスレティックトレーナーとしてスポーツ医科学的知識を競技スポーツの実践やパフォーマンス向上に活用できるようになることを目的としています。 ■授業の目的 アスリート、スポーツ指導者、あるいはアスレティックトレーナーといった競技スポーツ現場に携わる者が知っておくべき主なスポーツ外傷、障害、病態、緊急事態などについて、実際の事例を基にスポーツ医学的観点からの判断、評価する能力を高め、適切に対応できる技術と能力を身に付けることを目的とします。さらに修得したスポーツ医学の知識をリコンディショニングや競技力向上に役立てる応用力を養うことも目的としています。 ■授業のポイント スポーツ医学の知識は、単にスポーツ外傷・障害に対する治療だけではなく、機能解剖学的に正しいフォームやトレーニング方法、そして疲労回復、リコンディショニングといったアスリートのパフォーマンスアップおよびケガ・故障をしにくい身体づくりに直結する大変重要な学問分野です。		
総合到達目標	■アスリート、スポーツ指導者、あるいはアスレティックトレーナーとしてスポーツ医学の知識を競技力向上に役立て、スポーツ実践に活用することができるようになるために、スポーツ活動中に多いスポーツ外傷、スポーツ障害について、その原因や病態、対処法および予防法に関する知識を深め、適切な判断と対応ができる能力を身につける。 ・アスリートおよびスポーツ指導者などが知っておくべきスポーツ医学の基礎的知識について再度確認し、スポーツに起因したケガや故障すなわちスポーツ外傷・障害について説明できる。(第1,2回) ・スポーツ傷害の発生要因とその病態をより詳細に把握し、問題や課題を系統的に認識し概念化するための調査・評価方法を修得し、スポーツの現場で応用し実践できる能力を身に付ける。(第3,4回) ・代表的なスポーツ傷害の主な原因とその自己対応法を修得し、リコンディショニングやパフォーマンス向上に役立てる能力を身に付ける。(第5,6回) ・身体部位別のスポーツ外傷、スポーツ障害の特徴についての理解を深め、またそれぞれの初期対応・治療法を学修し、具体的な予防対策法を見出し、解決することができる能力を身に付ける。(第7～11回) ・競技種目別のスポーツ傷害の特徴について詳細に把握し、特に予防対策法について説明できる。(第12,13回) ・実際のスポーツ現場で発生し得る、一次救命処置が必要な場面における適切な対応能力を身に付ける。(第14回) ・本科目で修得した内容を自身の競技力向上に役立て、また指導者やトレーナーとして適切な対応が出来る能力を身に付け、スポーツ現場で実践できるようになる。(第15回)		
成績評価方法	■リアクションシート13回（40%）適応DP1,2,3 （評価の観点）授業内容を踏まえ、自らの意見をどのように説明できるかを評価します。 （フィードバック方法）授業時間内に評価を行います。 ■プレゼンテーション2回（40%）適応DP3 （評価の観点）自身が専門とする競技における、代表的なスポーツ外傷およびスポーツ障害についてのレポートを作成し、プレゼンテーションすることで授業の理解度確認および評価を行います。		

	(フィードバック方法) 授業時間内に講評を行います。 ■理解度確認テスト1回 (20%) 適応DP1,2,3 (評価の観点) 理解度を確認するためテストを行います。 (フィードバックの方法) 答案を確認し、自主学習につながるよう指導を行います。	
履修条件	特になし	
履修上の注意点	特になし	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ スポーツ医学の基礎的知識 ②授業概要 担当教員の整形外科医師として、および各種スポーツ競技のチームドクターとしての経験を踏まえた授業の進め方や評価について説明を行い、授業の概要や総合到達目標の認識を深め(DP1)、競技アスリート、指導者、およびメディカルトレーナーとして必要なスポーツ医学の基礎的知識の再確認と、受講者がどのように自身の専門とする競技スポーツに本科目内容を応用できるかについて考察し検討する(DP2,3)。 ③予習(120分) シラバスを読み、スポーツ医学の基礎的授業資料を再度確認し、授業の流れについて理解しておく。 ④復習(120分) ガイダンスによって説明された内容を踏まえ、再度シラバスを確認し授業概要を確認しておく。
	2	①授業テーマ スポーツに起因した外傷・障害 ②授業概要 担当教員の整形外科医師として、および各種競技スポーツのチームドクターとしての経験に基づいた講義を踏まえて、スポーツによるケガや故障、すなわちスポーツ外傷とスポーツ障害の違いについて正確に理解し(DP1)、主なスポーツ活動中に多いスポーツ傷害の頻度と傾向、発生状況なども含めて、スポーツ外傷・障害の特徴を説明できるようになる(DP2,3)。 ③予習(120分) 公認スポーツ指導者養成テキストⅠ-4-3p83-85、Ⅲ-7-3-1p186-187、JATI〔理論編〕p180-①を読み、特に自身に関与しているスポーツ活動中に多い主要なスポーツ外傷・障害に関して調べ考察しておく。 ④復習(120分) 授業内容を振り返り、一般的に頻度の高いスポーツ傷害を調査し、過去の自身のスポーツに起因したケガ・故障についてもまとめ、今後のスポーツ活動に役立てる。
	3	①授業テーマ 身体の医学的・機能解剖学的・運動生理学的な検査・測定と評価の意義 ②授業概要 担当教員の医師としての経験に基づいた講義を踏まえて、身体の各種検査・測定と評価の目的および意義、特に姿勢や身体アライメント、各関節の可動域などの測定方法について説明できるようになる(DP1,2)。 ③予習(120分) 身体の各関節の正常可動域を調べておく。 ④復習(120分) 講義内容を見返し、身体の検査・測定と評価の目的と意義、測定方法について確認しておく。
	4	①授業テーマ 身体の具体的な検査・測定と評価 関節弛緩性と関節不安定性、タイトネス ②授業概要 担当教員の医師としての経験に基づいた講義を踏まえて、関節弛緩性と関節不安定性の違いについてや、タイトネスについての知識を深め(DP1)、徒手の、あるいは各種計測器を用いた身体の各種測定、検査、および評価方法を身に付け(DP2)、またその意義について説明することができるようになる((DP2,3)。 ③予習(120分) 身体の不安定性やタイトネスの具体的な測定方法について調べておく。 ④復習(120分) 関節弛緩性と関節不安定性の違いや、タイトネスについて理解し、授業内で行われた検査・測定方法と評価方法を確認しておく。
	5	①授業テーマ スポーツ外傷・障害とストレッチング ②授業概要 スポーツ医学の観点から、ストレッチングの機能解剖学的および運動生理学的効果に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP2)、ストレッチングの意義、原理原則、解剖学的および運動性理学的効果効能や、ストレッチングとスポーツ傷害の関連について説明することができる(DP2,3)。 ③予習(120分) ストレッチングについてスポーツ医学的観点から検討された文献を整理しておく。 ④復習(120分) 取り扱われた資料や文献について読み返し、ストレッチングについて再度正確に確認しておく。
	6	①授業テーマ スポーツ外傷・障害に対する物理療法・レーザー治療 ②授業概要 代表的なスポーツ外傷・障害に対する物理療法やレーザー治療に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて低反応レベルレーザー治療機器を実際に体験し(DP1,2)、これらの適応や効果およびスポーツ現場への応用などについて説明することができる(DP2,3)。 ③予習(120分) 自身の携わる競技種目におけるスポーツ障害と物理療法に関してスポーツ医学的観点から検討された文献を整理しておく。 ④復習(120分) 取り扱われた資料や文献について読み返し、スポーツ傷害に対する物理療法に関する具体的な研究方法などを再度確認しておく。
	7	①授業テーマ 身体部位別のスポーツ外傷・障害：上肢 ②授業概要 スポーツ活動中に多い上肢の代表的なスポーツ外傷・障害に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて文献の精読を行い(DP1,2)、これらの特徴や病態、予防対策などを説明することができる(DP2,3)。 ③予習(120分) 公認スポーツ指導者養成テキストⅠ-4-3p86、Ⅲ-7-3-3p188-189、JATI〔理論編〕p24-39：2機能解剖(1)上肢、p188-⑦⑧⑨肩・肘・手関節の傷害を読んで確認しておく。 ④復習(120分) 自身の携わる競技種目における上肢のスポーツ傷害について検討された文献や資料を整理し、具体的な対処法や研究方法などを再度確認しておく。
	8	①授業テーマ 身体部位別のスポーツ外傷・障害：投球障害肩・投球障害肘 ②授業概要 野球肩や野球肘などの投球動作に起因した肩関節および肘関節の障害に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて文献の精読を行い(DP1,2)、これらの特徴や病態および理想的な投球フォーム について説明することができる(DP2,3)。 ③予習(120分) 野球肩、野球肘および正しい投球フォームについて調べ、自分なりにまとめておく。 ④復習(120分) 取り扱われた文献および公認スポーツ指導者養成テキストⅠ-4-3p86、Ⅲ-7-3-3p188-189、JATI理論編p24-39：2機能解剖(1)上肢、p188-⑦⑧肩・肘の傷害を読み返し、投球障害肩や投球障害肘に対する具体的な対処法や研究方法などを再度確認しておく。
	9	①授業テーマ 身体部位別のスポーツ外傷・障害：下肢 ②授業概要 足関節靭帯損傷、肉ばなれ、オスグッド病、ジャンパー膝など、非常に発生頻度の高い下肢のスポーツ外傷・障害に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて文献の精読を行い(DP1,2)、これらの特徴、処置および予防法などについて説明することができる(DP2,3)。 ③予習(120分) 公認スポーツ指導者養成テキストⅠ-4-3p86-87、Ⅲ-7-3-5p190-192、JATI〔理論編〕p48-62：2機能解剖(3)下肢、p180-186：7運動と医学②③④⑤足部・足関節、下腿部、膝関節、大腿部の傷害を読んで、下肢の主なスポーツ外傷・障害に関して調べておく。 ④復習(120分) 取り扱われた資料および文献を読み返し、下肢のスポーツ傷害に関する具体的な対処法および研究方法などを再度確認しておく。
	10	①授業テーマ 身体部位別のスポーツ外傷・障害：膝の靭帯損傷・半月板損傷 ②授業概要 スポーツ外傷のうち、手術を要し長期離脱を余儀なくされることが多い膝関節靭帯損傷・半月板損傷に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて文献の精読を行い(DP1,2)、診察方法、治療方針および予防法について説明することができる(DP2,3)。 ③予習(120分) 公認スポーツ指導者養成テキストⅠ-4-3p86-87、Ⅲ-7-3-5p190-192、JATI〔理論編〕p48-62：2機能解剖(3)下肢、p183-：7運動と医学④膝関節の傷害を確認し、膝関節外傷について検討された文献を整理しておく。 ④復習(120分) 取り扱われた文献および資料を読み返し、膝関節のスポーツ傷害に関する具体的な対処法および研究方法などを再度確認しておく。
	11	①授業テーマ 身体部位別のスポーツ外傷・障害：腰部障害 ②授業概要 体幹のスポーツ障害のうち、特に腰椎椎間板ヘルニアと腰椎分離症に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて文献の精読を行い(DP1,2)、腰部障害の病態や症状、検査、対応法などについて説明することができる(DP2,3)。 ③予習(120分) 腰部のスポーツ障害の病態および治療、予防法について、公認スポーツ指導者養成テキストⅠ-4-3p86、Ⅲ-7-3-4p189-190、JATI〔理論編〕p40-472：2機能解剖(2)脊柱と胸郭、p186-187⑥腰部の傷害を読んで確認し、腰部障害について検討された文献を整理しておく。 ④復習(120分) 取り扱われた文献や資料を読み返し、腰部障害に対する具体的な対処法および研究方法などを再度確認しておく。
	12	①授業テーマ 競技種目別のスポーツ外傷 ②授業概要 競技種目別のスポーツ外傷に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて文献の精読を行い(DP1,2)、代表的な競技種目におけるスポーツ外傷の特殊性について、自身が専門とする競技種目における競技特殊性およびスポーツ外傷の特

	徴について説明・プレゼンテーションすることができる(DP2,3)。 ③予習(120分) 自身が専門とするスポーツ競技における種目特殊性についてまとめることと、代表的なスポーツ種目におけるスポーツ外傷について検討された文献を整理しておく。 ④復習(120分) 取り扱われた文献や資料を読み返し、自身が専門とする競技におけるスポーツ外傷に関する具体的な対処方法、予防方法および研究方法などを再度確認しておく。
13	①授業テーマ 競技種目別のスポーツ障害 ②授業概要 競技種目別のスポーツ障害に関する担当教員の実務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて文献の精読を行い(DP1,2)、代表的な競技種目におけるスポーツ障害の特殊性について、自身が専門とする競技種目における競技特性およびスポーツ障害の特徴について説明・プレゼンテーションすることができる(DP2,3)。 ③予習(120分) 自身が専門とするスポーツ競技における種目特殊性についてまとめることと、代表的なスポーツ種目におけるスポーツ障害について検討された文献を整理しておく。 ④復習(120分) 取り扱われた文献や資料を読み返し、自身が専門とする競技におけるスポーツ障害に関する具体的な対処方法、予防方法および研究方法などを再度確認しておく。
14	①授業テーマ スポーツ現場における心臓突然死、心臓振盪と救急時の一次救命処置(BSL)、心肺蘇生法、AED処置 ②授業概要 誰でも遭遇する可能性のある、スポーツの現場における急変時の対応や、一次救命処置に関する担当教員の实務経験に基づいた講義を理解し(DP1,2)、それを踏まえて心臓突然死や心臓振盪の原因・病態と一次救命処置の必要性、AEDの意義およびCPRの実際の対応処置について修得し、実践できるようになる(DP2,3)。 ③予習(120分) JATI[理論編]p172-：3 緊急時の一次救命処置、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠ p88～を読んでおく。AEDの場所を確認しておく。 ④復習(120分) 心臓突然死や心臓振盪について自分なりにまとめておく。緊急時の一次救命処置(BSL)、CPR、AEDが使用できるようにする。突然死の原因とその予防、CPR、胸骨圧迫の手順やAED使用法を他人に指導できるようにしておく。
15	①授業テーマ まとめと理解度確認 ②授業概要 これまでの授業の総括と理解度確認テストを行い(DP1,2)、到達度を確認し振り返りを行う(DP2,3)。 ③予習(120分) 今までの講義内容および教科書を読み直し、各回のテーマに関する知識を整理し自分の考えも含めて論じられるように準備する。 ④復習(120分) まとめおよびテスト内容を振り返り、本科目で修得したスポーツ医学の専門な知識・技能を応用して、様々なスポーツ活動によって生じる多くのケガ・故障の発生要因とその病態をより詳細に把握し、問題や課題を系統的に認識し概念化することで、スポーツ傷害の初期対応、治療および予防対策法を見出し、解決することができるようになるとともに、競技アスリートとしての自己管理能力・競技力向上能力や、指導者あるいはメディカルスタッフとしての専門的な知識と技術の向上に役立てるためには何が必要かを改めて認識しておく。
関連科目	
教科書	JATI認定トレーニング指導者テキスト〔理論編〕 ISBN：978-4-469-26755-6 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅲ
参考書・参考URL	スポーツ指導者のためのスポーツ医学、南江堂、ISBN978-4-524-24034-0 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト③スポーツ外傷・障害の基礎知識 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④健康管理とスポーツ医学
連絡先・オフィスアワー	
研究比率	

